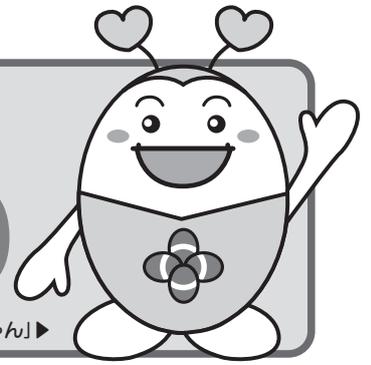


第58号 平成27年10月15日発行

# ボランティアだより

大分市社会福祉協議会マスコットキャラクター 愛称「ふくしのピロロちゃん」▶



## 台風第18号による関東・東北の豪雨災害にボランティアの大きな力!

～～ 泥出しや片付などのボランティアとともに、それを裏で支える大勢のボランティアの皆さん ～～

大分市社協では、甚大な被害が発生した茨城県常総市の災害ボランティアセンターに職員1名を派遣し、業務支援等を行いました。

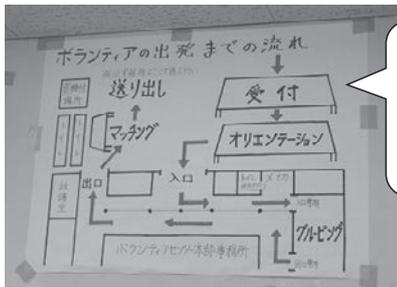


(堤防が決壊した常総市)



日頃から見守り活動で把握している“一人暮らし高齢者”等への安否確認。「何かお困りなどございませんか？お手伝い出来る事が有りましたらご相談下さい。」(ボランティアが、泥だしや片付けなどの要望を一件一件電話で聞いています)

大規模な災害になれば、ボランティア派遣先の地図、資機材管理など“情報の管理”も膨大になります。(大学生のボランティアなどがパソコンを使って資料等の作成をしています)



シルバーウィークでは、1日3,500人もボランティアさんに参加いただきました。ボランティアさんが困っている方々へ支援に行くまでに様々な“準備”が必要です。(駆けつけたボランティアさんが受付をして活動先まで派遣される流れです)

常総市社協の災害ボランティアセンターのスタッフは、社協職員だけではとても足りず、多くのボランティアさんが、センター運営に関わっていました。(付箋紙には、センター運営スタッフの名前が書かれています)



常総市では、地元ボランティアの方々が災害ボランティアセンターの運営スタッフとして大きな力となっていました。大分市社協でも、災害に備えて災害ボランティアセンター運営のための早急な体制作りに取り組みます。

## 大分市災害ボランティア登録の募集をしています

この登録制度は、事前に登録していただいた個人や団体(企業やグループ等)の方々に、研修や訓練などを通して災害時に災害ボランティアセンター運営スタッフとしてご協力いただくものです。

皆様方の登録をお待ちしております。

# 平成27年度 夏のボランティア体験月間のまとめ

平成27年7月19日から8月31日の間「2015夏 ボランティア体験月間」が実施され、大分市内から645名（昨年より78人増）もの多くの方々から申込みがあり、貴重な体験をしていただきました。

この体験月間は、大分県社会福祉協議会の主催のもと、市町村社会福祉協議会が参加して、県内の学生及び社会人に夏休みを利用してボランティア活動を体験する機会を提供し、自分たちが住む地域社会の現状や課題を理解していただくとともに、ボランティア活動への積極的な参加を促進することを目的に開催されています。

体験を終えた参加者の声からは、相手の気持ちに寄り添うやさしさが伝わり、これからもボランティア活動を行いたいという声も多く、ボランティアの輪がますます広がることが期待されます。ご参加ありがとうございました。

また、この体験の場を提供していただきました市内87の施設等の皆様、受け入れて下さったことに厚くお礼を申し上げます。



施設種別参加人数

(単位：名)

	高齢者福祉施設等	老人保健施設等	知的障がい者援護施設等	児童福祉施設等	児童(障がい児)福祉施設等	その他(児童育成クラブ等)	合計
高校生	67	54	41	228	6	112	508
大学・短大・専門学校生	41	21	22	21	0	23	128
社会人	1	0	3	0	0	0	4
その他(中学生含む)	0	0	0	1	0	4	5
合計	109	75	66	250	6	139	645



## 参加者の声から・・・一部を紹介します。

### 応募の動機

- 社会貢献をしたい ●学校の友達や先生に勧められた ●経験を積み重ねたかった ●学校の課題だった ●夏休みで時間に余裕があった ●ボランティア活動が好き ●自宅近くの施設に貢献したいから ●祖母が入所しており、施設での生活を身をもって体験したいから ●祖母が我が家に住むことになり、介護などを体験したかったから ●障がい者の気持ちや行動を知り、理解したいと思ったから ●ボランティア体験のある友人が生き生きと活動している姿をみて興味を持ったから ●中学のとき、職場体験学習でお世話になり、もう一度活動したいと思ったから ●大学卒業までの時間を有効に使い、様々な経験をしたかったから

### 活動後の感想

- 仕事内容が多く、職員間での連携やチームワークの重要さに気付いた。
- 園児の熱中症対策にとっても心がけていたので驚いた。
- 小学生の児童育成クラブに入っていたが、先生方がこんなに大変な仕事をしているとは思いませんでした。指導者の苦勞ややりがいを学ぶことができました。
- 祖父が過ごしていたディサービスで体験したが、祖父が笑顔で帰ってくる理由がわかりました。
- 「介護する側も楽しくなければ利用者様も楽しくならない」という言葉を心に刻んで頑張ります。
- スタッフの皆様へ 皆さんの優しい指導、明るい笑顔や老人の方への接し方など学ぶことが多く感謝しております。就職試験に合格してまた顔を見せにきます。



# ボランティアグループの活動紹介

## 大分Babys(ベビーズ)

こんにちは(^\_^)

私たち「大分Babys」は、「やれる時に、やれる事を、やれるだけ」を基本として、主に東日本大地震等の災害に関わる復興支援活動を行っています。

東北被災地での野外カクテルバー、復興を願う画家さんの作品展、震災に関する映画の上映会等、その内容は多岐にわたります。毎年、仕事を休んで東北を訪れる事は大変なこともあります。生きる覚悟をもった人たちから、反対に沢山の勇気と元気をもらってきます。何より、たくさんの友人ができる



福島県南相馬市の障害者自立研修所「えんどう豆」の皆さんと(^\_^)v



岩手県陸前高田市の米崎小仮設住宅の皆さんと(^\_^)

ことが楽しいですね (^\_^) /

いろんな活動を通して、大切な人たちを守るため、防災意識の向上を目標に、これからもマイペースで頑張っていこうと思っています。写真はこの夏も東北各地でカクテル・パーティーを開催させていただきました

o(^o^o

代表 関元 健二

ささむた

## 西寒多子ども神楽

西寒多子ども神楽は、昭和53年4月に大分市立寒田小学校創立と同時に発足し、今年で37年を迎えました。今では、6歳から高校2年生までの神楽が大好きな子どもたち16名が、協力し合ったり教えあったりしながら日々練習に励んでいます。毎年お正月の西寒多神社での奉納神楽に始まり、ふじまつり、火群まつり、各地域でのお祭りや敬老会、老人ホームへの慰問などに参加させていただいています。

その功績が認められ5月に大分市から顕彰の日表彰を受け、部員一同大きな励みになっています。

これからも一生懸命練習し、伝統芸能である神楽を守りつつ、みなさんに楽しんでいただけるようにがんばって行きたいと思います。

代表 羽田野 憲子



# 平成27年度

## 「朗読ボランティア養成講座」始まる

第21回平成27年度朗読ボランティア養成講座が、9月9日ホルトホール大分4階のボランティアルームにおいて開講しました。

ボランティアセンター所長から、講座の目的である「朗読を基礎から学ぶ」「ボランティア活動に活かす技術を磨く」「聞き手から喜ばれるボランティアを養成する」の話、講師の飯塚政利先生のユーモア溢れた挨拶の後、1回目の講座が始まりました。

初日は、自己紹介から始まり、声の出し方（呼吸法）の練習等を行いました。この講座は10回開かれ、修了すると朗読ボランティアのグループを結成して活動していただくことになっています。これまで、333名の方々が修了され、毎年親しみのあるグループ名で、読み聞かせ、対面朗読等のボランティア活動を高齢者施設、病院、保育園、子どもルーム等で行っています。



## ボランティア活動保険に関するQ&A

Q1

補償の対象となる「ケガ」とはどのようなものですか？

A1

急激かつ偶然な外来の事故によって被ったケガをいいます。

「急激」とは、原因または結果の発生を避け得ない程度に急迫した状態をいいます。

「偶然」とは、原因または結果の発生を予知できない状態をいいます。

「外来」とは、発生の原因が被保険者の身体に内在するものではなく外部にあることをいいます。

これらの要件を欠くケガとしては、「靴ずれ」「しもやけ」「長期間のストレスの蓄積による腰痛」などが挙げられ補償の対象となりません。

Q2

キャンプでのボランティア活動中、川で滑ってコンタクトレンズを流してしまいました。ボランティア活動保険で補償されますか？

A2

ボランティア個人の所有物は、ボランティア活動保険の補償の対象ではありません。転倒して眼鏡や入れ歯をこわしてしまった場合も同様です。

## ボランティアだより 発行元・お問い合わせ

社会福祉法人 大分市社会福祉協議会 地域福祉課 大分市ボランティアセンター

〒870-0839 大分市金池南1丁目5番1号 ホルトホール大分4階

TEL: 097(547)7419 FAX: 097(547)9582 E-mail: volun@oita-syakyo.jp

開所日時: 月～土曜日 9時～18時

【ただし、第2・4月曜日（祝日の場合は翌日以降の平日）及び祝祭日、12月29日～1月3日は除く】